令和６年度事業実施報告

（令和６年４月１日～令和７年３月３１日）

令和 6 年度の協会運営は、令和 6 年の定時社員総会で承認された事業計画と予算に則り、公益社団法人として、代表理事会長・理事副会長のもと理事会の執行機関として 9 つの「委員会」を設置し、各「委員会」ごとに責任を持って事業を推進し、全体を調整する機関として「総括運営委員会」を置き、当協会の理念に基づき、多岐にわたる協会の事業を具体的に効率よく実施し、予算内の収支で行いました。

A．公益事業

１．日本写真協会賞の令和６年度表彰及び令和７年度選考　【表彰委員会】

○令和６年度表彰式、展示会の実施

・令和６年度日本写真協会賞は、我が国の写真文化活動に顕著な功績が認められた内外の個人・団体をはじめ、前年に優れた作品・評論を発表された方々の中から令和６年２月 14 日に各賞の受賞者を選出し、3 月 21 日理事会で決定し、3 月 29 日にカメラ記者クラブ・関係諸機関・一般紙報道機関や公共機関にニュースリリースを配布して、対外発表しました。その後、6 月 3 日に表彰式ならびに受賞者祝賀パーティーを九段会館（東京）で行いました。また 5 月 31 日～6 月 6 日に予定した受賞作品展は、富士フイルムフォトサロン東京（六本木）で計画通り開催しました。

○選考委員　（敬称略、五十音順）

板見浩史（フォトエディター）、今森光彦（写真家）、上田義彦（写真家）、楠本亜紀（評論家・キュレーター）、瀬戸正人（写真家）

○令和６年度受賞者（敬称略）

☆作家賞：　公文健太郎

☆新人賞：　遠藤励、夢無子

☆国際賞：　沈昭良

☆功労賞：　川田喜久治、東京工芸大学

☆学芸賞：　寺崎英子写真集刊行委員会（代表：小岩勉）

○令和７年度受賞者の選考

・日本写真協会賞の規程について、表彰の種類・対象者数を見直しました。見落とされがちな地域の写真文化向上に貢献した個人・団体を顕彰するために「文化振興賞」を新設するとともに、国際賞はノミネート数が減少傾向にあることを受け、その機能を「文化振興賞」に一本化しました。また、従来は各賞でバラバラであった各賞の対象者数を原則１名または１団体以内としました（令和６年６月 17 日令和６年度第２階通常理事会にて承認）。

・令和７年度日本写真協会賞の選考は、恣意的な選考に陥らないよう、会員及びノミネーターから昨年末までに候補者の資料を広く収集し、令和７年２月 20 日、5 名の選考委員による「選考会」を開催し、作家賞１名、新人賞 1 名、文化振興賞 1 名、功労賞 1 名の受賞者を内定致しました。なお学芸賞については、該当者がありませんでした。

これを令和７年３月 25 日に理事会で承認決定し、3 月 31 日に対外発表しました。

○選考委員　（敬称略、五十音順）

板見浩史（フォトエディター）、今森光彦（写真家）、上田義彦（写真家）、太田菜穂子（キュレーター）、小原真史（キュレーター、東京工芸大学准教授）

○令和７年受賞者及び受賞理由（敬称略、五十音順）

☆作家賞：　露口啓二

長年、北海道で和人によるアイヌモシリの植民というテーマに向き合ってきた作家は、写真集『移住』

(2024)で、撮影対象を「本土」にも広げた。アイヌを強制就学させた開拓使施設、鉱毒問題で移住を余儀なくされた足尾、原発事故の帰還困難区域などだ。過去の出来事に関する記憶や痕跡が消えた寒々しい風景を積み重ねる手法は、淡々としているが故に作者の憤りを感じさせ、熱いものが伝わってくる。この労作に対して。

☆新人賞：　青木 弘

写真集『樹平線』(2020)は、中央アフリカ共和国で生きる子供たちの未来を変えたいという氏の願いが詰まっている。戦場カメラマンとして戦争の愚かさと命の大切さを体験した氏の写真に寄せる深い信頼と真摯な姿勢、被写体に寄せる愛情と共感は、写真を撮る理由や写真の見方にひとつの方向性を示す。日本人写真家の国際的な活動とそのありようを立証した『樹平線』を起点とする氏の活動に対して。

☆功労賞：　中谷吉隆

1957 年東京写真短期大学(現･東京工芸大学)卒業後、世相を鋭く捉えた作品を数多く発表した。氏の撮影テーマは広範多彩だが、中核はスポーツ写真である。1977 年日本スポーツプレス協会設立に尽力、初代会長となり、日本のスポーツジャーナリズムの発展に大きく貢献した。また写真講師や写真俳句伝道者として、アマチュア写真の普及にも貢献している。この長年に亘る功績に対して。

☆文化振興賞：　大西暢夫

『ひき石と 24 丁のとうふ』(2024)は、山深い村落で豆腐作り店を営む 90 歳の女性が逞しく生きる感動の写真絵本だ。『おばあちゃんは木になった』(2002)や『ぶたにく』(2010)等どの作品も普通は目にしない世界を描き秀逸。特に岐阜県徳山村がダム建設により水没するまでの長期取材『ホハレ峠』(2020)は、現代人のもつ価値観の善悪を問いかける。氏が息も絶え絶えな人々との出会いを大切に、奥深い物語を私たちに伝えるドキュメンタリーというべき労作に対して。

☆学芸賞：　該当なし

２．「東京写真月間 2024」の開催と「大阪写真月間 2024」への協賛　【写真月間委員会】

・事業名　「東京写真月間 2024」(The Month of Photography Tokyo 2024)
・主　催　「東京写真月間 2024」実行委員会／公益社団法人 日本写真協会
・共　催　東京都写真美術館
・後　援　外務省、環境省、駐日インド大使館
・事業開催期間：2024 年 5 月 17 日～2024 年 12 月 1 日
・実施概要

2024 年は国内企画展 SDGs シリーズ vol.3 として「写真の力で伝えよう SDGs」と国際展アジアの写真家たちとしてグローバルサウスの一員の中で近年ますますその存在感を増している「インド 2024　since2007」を開催しました。また、第 20 回公募「写真の日」記念写真展・2024 は 12 月 1 日に東川町文化ギャラリーで巡回展が終了し、すべての事業を滞りなく終えることが出来ました。

なお、新宿ヒルトピアアートスクエアと福島市写真美術館では「写真の日」記念写真展・2024 とピックアップしたインド展を展示、東川町文化ギャラリーでは国内企画展全作品を展示しました。

また、6 月 3 日に九段会館において日本写真協会賞受賞式及び「東京写真月間 2024」オープニングセレモニーを開催しました。

1）　国内企画展

国内企画展は、継続テーマとして「写真の力で考えよう 未来に希望を」をキャッチフレーズに SDGs(2030 年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標)を意識した写真展を開催しました。本年は「写真の力で伝えよう SDGs」をテーマに会員を対象とした公募形式で作品を募集しました。お陰様でこの企画は大変ご好評を頂いており、環境問題・環境保全などについての様々な取り組みを表現する作品を多数ご応募頂きました。

その中から、実行委員会と関係者による選考の結果 9 名の出展者が選出され、6 会場で写真展が開催されました。何れも多面的な切り口で「SDGs」についての取り組みを表現した写真展でした。

コンドウダイスケ「マタギの鉛筆」

作者は現代に生きるマタギが山菜や山野草といった植物を写真データとして“採取”し、そのデータからプロダクツを制作することによりマタギとしての生業を作り出す試みに共同参画しています。また、環境に負荷をかけない山野の恵みの活かし方を模索しています。本作品はそれらの過程の中で撮影された植物のデータを写真展という形で再編集しました。

会場：キヤノンオープンギャラリー１　5月17日～6月17日

大塚友記憲　「ヌタプカウシペ」

北海道の中央部に位置する大雪山は先住民族の上川アイヌの人々から「ヌタプカウシペ」(川の湾曲部の上にいつもいらっしゃるもの）と呼んでいたそうです。彼らにとって神聖な東の方角に鎮座し、日々の恵みをもたらしてくれる「ヌタプカウシペ」は現在の私たちにとっても変わらない大切な存在です。そのような自然の恵みをもたらしてくれる「ヌタプカウシペ」を先人に敬意を払いつつ捉えた作品です。

長田達明「魚津埋没林-沈黙からの目覚め」

天然記念物である魚津埋没林を撮影した作品です。海水の中で埋没林が腐ることもなく残ったのは、山から流れ出る雑菌の少ない伏流水などにより自然環境が保たれたからです。海洋資源の持続可能な利用や海洋汚染の削減などSDGsの目標「海の豊かさを守ろう」に繋がるように埋没林を通じて表現しています。

川口和之「OKINAWAN　PROSPECTS」

作者のPROSPECTSシリーズは、その言葉の一義である「眺望」や「見直し」といった言葉に加え、その場所の歴史性を踏まえながら、将来の姿や展望を写真によって浮かび上がらせる試みです。沖縄県の自治体は2021年にSDGs未来都市に選定されました。そのテーマは「誰一人取り残されない持続可能な美ら海「沖縄らしさ」の実現～SDGs推進による沖縄の継承と変革への挑戦～」。約50年に亘り沖縄の各地を撮り続けた作者が、変わらない沖縄と変わり続ける沖縄の現実を視続けた作品です。

会場：エプソンスクエア丸の内 エプサイトギャラリー　5月24日～6月12日

堀内洋助「再生の原風景-渡良瀬遊水地と足尾」

足尾銅山鉱毒事件により足尾の山と渡良瀬遊水地は荒廃しました。その後一世紀を超える月日は遊水地を本州最大のヨシ原と野鳥や植物、昆虫などの貴重な自然の宝庫に再生させました。作者はライフワークとして長年足尾と渡良瀬遊水地の撮影に取り組んでいます。足尾と遊水地の四季の移ろいの一瞬の美を現した作品です。

会場：ニコンプラザ東京 THE GALLERY　　5月28日～6月8日

岡田　満「いのちを紡ぐ」《身近での野鳥の生態から野生との共存を考える》

作者はコロナ禍を契機に自宅のすぐ近くにある大阪市南部の川を見直しました。そこには魚や野鳥の姿を見ることが出来ました。そこで撮影範囲を大阪市内にも広げました。環境の悪化にも関わらず魚や野鳥は真摯に精一杯生き抜き、その野生は脈々と受け継がれています。豊かで多様な生き物が存在する社会であるべきだとの願いが込められた作品です。

香川良海「草花一本大分県西部」

作者は万人が愛する桜にも感動しますが、寂しい山中でも頑張っている草花もかけがえのない命は同じだと思っています。温暖化防止に少しでも協力しつつ、自然に感謝し、撮影のテーマを草花－木との共生とし、時間の許す限り草花と語り合いながら写した作品です。

会場：OM SYSTEM GALLERY　　5月30日～6月10日

村上　忍「Plants with us (植物と私たちの生活)」

作者は植物との親和性に興味を持っています。また、人の気配を失った場でたくましく生きる植物の生命力に驚いています。それは私たち人間の植物への親和性(愛着)の理由が審美眼の他に、さらに根源的な生命力に結びつくものかもしれないと作者は考えています。これからも続いていくべき大切な植物と人とのこうした関係性について、身近な植物の在り方を見つめながら撮影した作品です。

会場：LUMIX BASE TOKYO　6月5日～6月30日

出水恵利子「海とともに」

作者は消波ブロックを撮り続けています。多くの人が嫌う消波ブロックは実は波を砕き、砂浜を守り、土地を守り、人を守っています。地球環境を考える一つとして、日本各地の消波ブロックを撮影した作品です。

会場：ピクトリコショップ&ギャラリー　6月11日～6月15日

2） 国際展「アジアの写真家たちインド2024 Since2007」展

国際展は 2007 年度に日印交流年を記念に開催したインドを再び取り上げました。インドは昨今グローバルサウスの盟主として注目されています。2007 年に初めて取り上げてから十数年経過した同国の発展と、環境問題、人権尊重、生物多様性を意識した出展作家 16 名による写真展を、ソニーイメージングギャラリー、プレイスM、ニコンプラザ東京 THE GALLERY、LUMIX BASE TOKYO、ピクトリコショップ&ギャラリー、ヒルトピアアートスクエア、半蔵門ミュージアムの７会場にて開催しました。また、2007 年度と今回もキュレーターとして協力頂いた写真家でもあるスペンダー・チャタジーを含め２名を６月１日「写真の日」記念セレモニー（開催日６月３日）に招聘しました。

■ニコンプラザ東京 THE GALLERY　5月28日～6月8日
Prashant Panjiar

■半蔵門ミュージアム　5月29日～6月30日
Lopamudra Talukdar

■ソニーイメージングギャラリー　5月31日～6月6日
Swastik Pal, Jayati Saha, Dhritman Mukherjee, Faheem Qadri, Jhuma Dutta

■Place M　6月3日～6月9日
Swapan Nayak, Joydip Mitra Ranita Roy, Senthik Kumaran

■LUMIX BASE TOKYO　6月5日～6月30日
Riti Sengupta

■ピクトリコショップ&ギャラリー　6月11日～6月15日
Shravya Mishra

■ヒルトピアアートスクエアギャラリーC　7月4日～7月9日
Cop Shiva, Suvomoy Mitra, Vicky Roy

【特別企画展 SDGs 地域との共生「結城市と紡ぐタイ王国」】

結城市(茨城県)とメーサイ市(タイ王国)が国際親善姉妹都市として12周年を迎えるのを記念して、PSJ会員の鈴木恵理子「ナム・ジャイ」写真展と、日タイ修好130周年記念写真コンテスト入賞作品選抜展をタイ国政府観光庁、結城市出身当協会会員小島三幸協力のもと展示しました。

会場：結城蔵美術館　6月2日～30日

3） 第20回公募展 「写真の日」記念写真展・2024

「東京写真月間 2024」の事業の一つとして、「感動発信！感動共有！」をキャッチフレーズに掲げ、公募による「写真の日」記念写真展・2024 を開催しました。

今回から,「国際女性の日」賞と「SDGs」賞を新設しました。

作品のテーマは風景、花、旅、家族、動物、行事、スポーツ、スナップなど「自由」。

全国 702 人の方々から、多彩な分野の作品 1,750 点のご応募を頂きました。

選考委員：安念余志子、永嶋勝美、高橋まゆみ

展示内容：環境大臣賞１点、外務大臣賞１点、「国際女性の日」賞１点、「SDGs」賞１点、
優秀賞８点、奨励賞 10 点、協賛会社賞 40 点、入選 68 点　合計 130 点

会　場：新宿ヒルトピアアートスクエアギャラリーAB

会　期：7月4日～7月9日
巡回展：長崎県美術館県民ギャラリーA　　7月16日～7月21日
　　ワキタギャラリー（名古屋）　　8月9日～8月14日
　　福島市写真美術館　　9月14日～9月23日
　　「写真の町」東川町文化ギャラリー　　11月15日～12月1日

4）2024年日本写真協会賞受賞作品展
会場：富士フイルムフォトサロン 東京　5月31日～6月6日
展示作品　作家賞：公文健太郎　新人賞：遠藤励・夢無子
紹介　国際賞：沈昭良　功労賞：川田喜久治・東京工芸大学　学芸賞：岩崎英子写真集刊行委員会

5）その他
●「日本写真協会賞表彰式」「東京写真月間オープニングセレモニー」
会場：九段会館テラス　6月3日
昨年に引き続き通常開催し、会員・賛助会員・関係者など多くの方が参加して頂き、協会ならではの交流の場となり賑わいました。

●共催・後援・協力事業
◆第5回「親子の写真まつり」（写真家ブルースオズボーン氏による主催「親子の日普及推進委員会」）に初回より後援し、今回は日本ジャマイカ外交関係樹立60周年を記念し、写真家 安珠氏（当協会会員）によるジャマイカ親子の作品を展示、参加した。
会場：日本外国特派員協会(FCCJ) 丸の内二重橋ビル5F　6月1日～6月28日
◆SDGs「地域との共生」「東京写真月間2022」出展作家によるグループ展（当協会会員）
会場：ポートレートギャラリー　　6月6日～12日
会場：長崎県美術館県民ギャラリーA　7月16日～21日（巡回展）
◆日本著作権協会主催 写真展 （PHOTO NEXT 2024内）
会員11団体の推薦写真家を出展。当協会は、会員の高田晋浩氏の作品を展示した。
会場：パシフィコ横浜　　6月11日～12日
◆WONDER Mt FUJI 展　　会場：東京都写真美術館B1F　　6月1日～7月21日
WONDER at Spiral 展　　会場：スパイラルガーデン　　6月11日～23日
富士山～自然の驚異と感動を未来に繋ぐ～（主催：NPO東京画）

◆第9回HIGASHIKAWA高校生国際交流写真フェスティバル
東川町　8月20日～24日
世界の国・地域から日本も含め20ヶ国21校が参加。東川町で写真を通して交流。
【主催】高校生国際交流写真フェスティバル実行委員会
＜構成団体＞東川町 / 一般社団法人ひがしかわ観光協会 / 東川町商工会 / 東川町教育委員会 / 学校法人北工学園 / 株式会社東川振興公社 / 株式会社北の恵
【後援】外務省 / 一般財団法人自治体国際化協会 / 駐札幌大韓民国総領事館 / タイ王国大使館 / 駐日ウズベキスタン共和国大使館 / 在日カナダ大使館 / 駐日ラトビア共和国大使館 / 在札幌米国総領事館 / 在日ミャンマー連邦共和国大使館 / 駐日コロンビア共和国大使館 / 駐日アイルランド大使館 / 台北駐日経済文化代表処札幌分処 / 北海道教育委員会 / 公益社団法人全国高等学校文化連盟 / 北海道高等学校文化連盟 / 高等学校文化連盟全国写真専門部　/キヤノンマーケティングジャパン株式会社 ／ ウエスタンデジタル合同会社 / EIZO株式会社
【協賛】近畿日本ツーリスト株式会社旭川支店
【協力】「東京写真月間」実行委員会 / HJK株式会社

●図録

「東京写真月間2024」を総括した図録を作成して、ご協力頂いた関係機関に配布するとともに、関係各国大使館等の公共機関にも無料提供しました。また、「写真の日」記念写真展入賞者等購入を希望する写真愛好家には、一冊2,000円で頒布しました。

＊1000人の写真展「わたしのこの一枚」は中止としました。

○「大阪写真月間２０２４」を共催　(500,000円を協賛)

大阪の写真文化向上を目指す「大阪写真月間」は今年で23年目を迎え、下記内容の写真展等を実施しました。

1）写真家150人の一坪展　5月21日～7月3日　4会場　参加116名
キヤノンギャラリー大阪、富士フイルムフォトサロン 大阪、αプラザ(大阪)ギャラリースペース、ニコンプラザ大阪 THE GALLERY

2）大阪写真月間ハイスクールフォトアワード2024
6月22～7月12日　αプラザ(大阪)ギャラリースペース　参加38校2811作品
日本写真協会会長賞を設定：富山県立富山東高等学校 清水ひかり氏に授与

3）写真展「私のこの一枚」　6月26日～7月1日　イロリ村[89]画廊　313作品

4）子供たちのための写真講座「親子で挑戦！デジタルピンホール写真」
7月27日　ニコンプラザ大阪セミナールーム　親子10組21名

5）記念シンポジウム「画像生成AIとは何か」
6月16日　大阪中之島美術館1Fホール　参加110名

３．国際交流活動　【国際交流委員会】・【写真月間委員会】

(1) 国際展「アジアの写真家たちインド2024 Since2007」
(※内容は、東京写真月間2024国際展の項目に掲載)

(2) **「日本・ジャマイカ外交関係樹立60周年」「日本・カリブ交流年2024」記念**
日・ジャマイカ国際交流写真展「PHOTO♡ONE LOVE」

2024年「日・ジャマイカ外交関係樹立60周年」「日・カリブ交流年2024」を記念し、ボブ・マリーの名曲「ONE LOVE」のタイトルから「PHOTO♡ONE LOVE」と題し開催しました。協会では、初めてのカリブ地域の国の写真展となります。今回の交流展は、両国の大使と写真家 安珠氏（当協会会員）の協力を得て実現しました。両国でも初めてとなる双方の国の写真家が、自国を紹介する写真展となりました。ジャマイカでは、日本を代表する著名な写真家3名が、日本の四季、祭り、ポートレートスナップの写真展と両国で参加の安珠氏のジャマイカと姉妹提携となる鳥取県の子供たちの学校生活を撮影した作品を展示しました。日本では、ジャマイカ在住で活躍されている写真家5名による自然や風景、伝統、人々等と、安珠氏が現地の鳥取県と姉妹提携ウエストモアランド県の子供たちの学校生活を撮影した作品を展示しました。日程と場所は、以下の通りです。日本では巡回展を鳥取市で開催。東京の会場では、レゲエ音楽に包まれた中で写真を鑑賞、ジャマイカのコーヒーや雑貨などの販売もあり、開催中は多くの来場者で賑わいました。

・ジャマイカ会場　国立美術館 National Gallery of Jamaica
展示作家　芳賀日向、ハービー・山口、鈴木一雄、安珠
開催期間　2024年 10月6日(日)～29日(日)

・東京会場　ヒルトピアアートスクエア-ヒルトン東京B1　(新宿)
展示作家　Jeremy Francis、Donnette Zacca、Craig Phang-Sang、Franz Marzouca、Kianne Patric、安珠
開催期間　2024年10月24日(木)～29日(火)

・鳥取会場　とりぎん文化会館1F フリースペース　(鳥取市)
展示作家　Jeremy Francis、Donnette Zacca、Craig Phang-Sang、Franz Marzouca、Kianne Patric、安珠

開催期間　　2024年11月4日(月)～13日(水)

(3 日本写真協会賞新人賞受賞作品を海外に紹介

ウクライナなど世界に緊張状況が続いている中で、海外からのオファーも無い状況が続いています。

4．写真・映像教育の推進　【写真・映像教育推進委員会】

平成18年3月にスタートした写真・映像教育の推進事業は、子供達に写真の楽しさ、面白さなど感動と親しみを体験してもらうことを目的に、「ピンホール写真体験教室」ならびに「デジタル写真体験教室」を実施しています。令和6年度はコロナ禍も一段落し、各学校・教師等からの実施要望に応じて実施しました。

令和6年度実施状況

令和6年度トータルとしては、17ヶ所、749名が参加しました。

「ピンホール写真体験教室」：9ヶ所 参加人数522名

「デジタル写真体験教室」：　8ヶ所 参加人数227名

■令和6年度 写真体験教室実施状況

	会場・主催者	内容	開催日	対象	参加人数
1	多摩六都科学館	デジタル	7/ 6	小･中学生	26
2	聖光学院中学・高等学校	ピンホール	7/15	中学･高校生	48
3	酒田市土門拳記念館	ピンホール	7/20	小･中学生の親子	41
4	秦野市立本町公民館	ピンホール	7/27	小学生	9
5	国立市観光まちづくり協会（協力）	デジタル	7/27	小･中学生	15
6	大田区立出雲小学校	デジタル	7/31	小学生	15
7	神奈川県立大船フラワーセンター	ピンホール	8/ 2､3	小学生の親子	61
8	名古屋市科学館	ピンホール	8/24､25	小学生の親子	106
9	中野区江古田区民活動センター	ピンホール	8/28	小学生	21
10	相模原市立上溝南中学校（*）	ピンホール	10/16､17､18	中学1年生 理科	169
11	大田区立中萩中小学校	ピンホール	10/31	小学3年生 理科	54
12	藤沢市立藤ヶ岡中学校（*）	デジタル	11/13	中学生 写真部	30
13	和光市立南公民館	ピンホール	11/16	幼･小･大人	13
14	聖光学院中学・高等学校	デジタル	12/17	中学･高校生	42
15	藤沢市立御所見公民館	デジタル	3/ 1	小学生	60
16	中野区江古田区民活動センター	デジタル	3/ 2	小･中学生	11
17	多摩育児会保育園（協力）	デジタル	3/ 4	幼	28

(*)地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所(KISTEC)からの派遣要請授業

1）ピンホール写真体験教室

写真の歴史、ものの映るしくみ等を説明し、各自ピンホールカメラを組み立て、光の性質を理解しながら銀塩方式の写真体験をしてもらいました。東京、神奈川など首都圏の教育支援事業としてスタートしましたが、写真・映像教育への関心は着実に広がりを見せています。首都圏以外では、酒田市土門拳記念館および名古屋市科学館で教室を実施しました。

2）デジタル写体験教室

写真の原理はもちろんですが、物事をよく観察することの大切さや、写真の持つ多様な力の中から自分の気持を表す自己表現力・コミュニケーション力をいかに引き出すかに重点を置いて実施しました。併せて、断りもなく他人の顔を写さない、花壇等に勝手に踏み込まない等の撮影マナーや、著作権・肖像権等の法的権利についてもその重要性を学んでもらいました。

5．年報・図録等の発行　【出版広報委員会】・【写真月間委員会】

1）年報

「不特定多数の利益の増進に寄与する公益事業」として認定された「日本写真年報」は、2013年版より「日本写真年鑑」と題し、従来の写真業界の年報としての機能に合わせ、年間を通じた写真界の幅広い情報を

掲載してまいりましたが、2021 年版からは時代に即した内容精査を行い、従来の写真業界の年報としての機能に重点化し「日本写真年報」として新たに発行することとしました。2024 年版もこの方針の下、12 月に発行・配布を行いました。

2）東京写真月間図録

「東京写真月間」の開催にあたって、事業内容を集約した図録を製作・頒布しました。

B．共益事業

1.会報の発行【出版広報委員会】

令和 6 年度は、事業計画通り年 2 回、12 月(秋･487 号)･3 月(春･488 号)を発行し、各時点における協会及び会員の活動や今後の計画、写真文化情報などを紹介しました。また、6 月には東京写真月間 2024 図録を全会員・賛助団体に郵送しました。

・主要掲載記事

487 号：「2024 年日本写真協会賞表彰式」「東京写真月間 2024 国内企画展」他

488 号：「総合開館 30 周年を迎えた東京都写真美術館のあゆみ」「『東京写真月間 2025』30 周年」他

2.日本写真協会賞受賞祝賀会 兼 叙勲･褒章受章祝賀会 兼 東京写真月間レセプションの開催【総務委員会】

令和 6 年度は、「6 月 1 日写真の日」事業として、6 月 3 日に九段会館テラスにて「日本写真協会賞受賞祝賀会」兼「叙勲･褒章受章祝賀会」兼「東京写真月間レセプション」を開催しました。会員・賛助会員・関係者など多くの方が参加して頂き、協会ならではの交流の場となり賑わいました。

C．法人運営事業

1. 公的機関が主催する写真コンテスト・イベント等への協力 【総務委員会】･【写真月間委員会】

公益社団法人移行後、公的機関からの写真コンテスト・イベント等の相談及び協力依頼に対応しています。

1）第 40 回「東川町国際写真フェスティバル」へ協力

北海道東川町主催の第 40 回「東川町国際写真フェスティバル」(8 月 3 日～9 月 2 日)を後援しました。

2）第 4 回「無電柱化の日」フォトコンテストへ協力

東京都主催の「無電柱化の日」フォトコンテスト(応募: 7 月 5 日～10 月 1 日､表彰式:11 月 8 日）に後援し、審査員を紹介(当協会会員 川合麻紀氏､山﨑友也氏)するとともに、フォトコンテスト告知に協力しました。

3）総務省より、統計局発行書籍の掲載写真へ協力

総務省統計局発行「世界の統計 2024」の表紙に、当協会会員・大日向達也氏の写真(チリのラバ・ヌイ国立公園)が採用されました。

2．社員総会・理事会・総括運営委員会の開催 【総務委員会】

4 月 26 日の第 1 回通常理事会において、令和 5 年度事業報告、貸借対照表および損益計算書の承認、定時社員総会開催内容を決定しました。

6 月 17 日に令和 6 年度定時社員総会を開催、議決権者 1,326 名、議決権行使 791 名（出席 25 名を含む）で令和 5 年度事業報告、令和 6 年度事業計画･予算を報告、令和 5 年度決算、役員辞任に伴う新理事･新監事選任、役員報酬総額、「入会及び退会規程」改訂を決定。総会終了後、第 2 回通常理事会を開催しました。

令和 7 年 3 月 24 日に第 3 回通常理事会を開催。令和 7 年度事業計画･予算を承認しました。

また、5 月 21 日、9 月 17 日、11 月 19 日、1 月 21 日、3 月 18 日の計 5 回、事業報告及び財務状況を代表理事会長、理事副会長に各委員会委員長が報告する総括運営委員会を開催しました。

３．コンプライアンス【コンプライアンス委員会】【総務委員会】

令和７年３月７日 コンプライアンス委員会を開催（尾畑業務執行理事、松本理事副会長、庄業務執行理事）し、令和６年度の公益事業に関し、適切な運営ができたかを点検しました。また、令和４年４月１日から義務化された「改正労働施策総合推進法」に基づく「パワーハラスメント防止措置」を受け、運用開始したコンプライアンス・ヘルプラインの状況につき確認を行いました。

４．永年会員表彰の実施　【総務委員会】

令和５年度に創設した、個人正会員に対する永年会員表彰制度に基づき、協会の継続在籍年数10年・20年・30年の対象者に記念品（ピンバッジ）を贈呈しました。令和６年度は、継続在籍年数10年35名・20年33名・30年２名の方を表彰しました。

５．新規入会促進施策の実施　【総務委員会】

令和６年６月に「入会及び退会規程」を改訂し、これまで必要だった２年以上在籍会員２名の紹介規程を削除し、入会申込の間口を広げました（令和６年度定時社員総会にて承認）。

また令和６年11月、協会ホームページから直接入会申し込みができるように、ホームページに「入会申込フォーム」を設置しました。これまで入会申込するためには、「入会申込書」をホームページからダウンロードするか、入会申込パンフレットを取り寄せ、必要事項を記入の上、事務局宛てに郵送する必要がありましたが、これにより簡単に入会申込できるようになりました。

更に「１＋ONE キャンペーン」と銘打って、会員の方から友人・知人に入会を薦めて頂き、その友人・知人が入会頂いた場合、会員の方に記念品（東京写真月間30周年記念トレシー）をプレゼントするキャンペーンを開始しました（実施期間：令和７年１月１日～12月31日）。

６．協会ホームページの安全性向上施策の実施　【総務委員会】

協会ホームページに「入会申込フォーム」を設置するのに先立ち、令和６年10月より通信のしくみをHTTP通信からHTTPS通信に移行し、ホームページ自体の安全性を向上させました。

７．展覧会等の後援　【総務委員会】

当協会は公的機関や学校教育機関、マスコミ、写真関係団体等が主催し、内容が文化、教育、国際交流に寄与する写真展等に対して後援・協賛・協力を行っていますが、令和６年度は以下の催事をバックアップしました。

	申請者（≠主催者）	写真展名	会期・場所
1	日本写真家連盟	第37回『四季の彩り』展	2025年２月12日～19日東京都美術館、「大阪展」３月14日～20日富士フイルムフォトサロン大阪
2	日本山岳写真協会	2024年日本山岳写真協会展	2024年９月９日～９月16日 東京都美術館他巡回
3	(公財)セディア財団	生きもの写真リトルリーグ	募集：５月10日～６月10日／展示：７月21日～８月18日小諸高原美術館
4	東川町写真の町実行委員会	第40回東川国際写真フェスティバル【後援・顧問】	７月30日～９月２日北海道東川町町内一円
5	(一社)東京都民間保育協会	第７回「TOKYO保育フォトコンテスト」「TOKYO保育フォト展」	11月15日～16日東京教育専門学校
6	(公社)日本広告写真家協会	第15回「全国学校図工・美術写真公募展」	７月10日～11月８日
7	(一社)日本現代写真家協会	JMPA第５回インターネットフォトコンテスト【後援・会長賞】	11月１日～12月10日JMPA第５回インターネットフォトコンテスト専用サイト
8	第59回日本光画会写真展	第59回日本光画会写真展	12月17日～2025年４月16日江之子島文化芸術創造センター他

	申請者（≠主催者）	写真展名	会期・場所
9	「にっぽんー大使たちの視線」写真展実行委員会	にっぽんー大使たちの視線2024写真展	10月2日～2025年6月30日東京 六本木ヒルズ、沖縄市、神戸市、横浜市、名古屋市など
10	NPO 東京画/ KL-GA ・KLPA Photographic PorrtaitPrize / SABAH ART GALLERY	マレーシア・日本共同写真プロジェクト『二つの山の物語』2013-2025 第4章写真展	2025年4月12日～6月8日サバアートギャラリー・マレーシア
11	ＮＨＫ学園	第35回ＮＨＫ学園生涯学習写真展【後援・会長賞】	5月12日～5月18日：東京都美術館2F展示室
12	(一社)日本写真文化協会	第71回全国展フォトコンテスト	5月28日～6月4日東京都美術館
13	(公財)セディア財団	生きもの写真リトルリーグ	7月20日～8月17日小諸市高原美術館
14	大韓民国国際フォトフェスティバル組織委員会	大韓民国国際フォトフェスティバル　川井靖元・金起煥ジョイント展「世界の名峰をめぐる」	4月22日～4月27日ソウル芸術の殿堂ハンガラムデザイン美術館
15	フォトシティさがみはら実行委員会	相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら2025	4月1日～2026年3月31日相模原市民ギャラリー他
16	阿智村	第28回熊谷元一写真賞コンクール	4月～9月26日熊谷元一写真童画館内
17	土門拳記念館	ピンホールカメラ体験教室【協力】	7月20日酒田市総合文化センター
18	土門拳記念館	第19回写真展「わたしのこの一枚」【協力】	10月8日～22日土門拳記念館
19	福島市振興公社	江口敬写真展「二つの部屋」【協力】	9月11日～9月29日福島市写真美術館
20	福島市振興公社	岡本洋子写真展「花の森へようこそ」【協力】	11月9日～12月8日福島市写真美術館
21	(一社)カメラ映像機器工業会	CP+(シーピープラス)2025【協力】	2025年2月27日～3月2日パシフィコ横浜
22	全日本写真連盟	全日本写真連盟創立100周年記念写真コンテスト【協力】	2025年5月～9月3日、巡回展26年1月
23	(株)プロメディア／主催団体：日本フォトイメージング協会・(一社) 日本写真映像用品工業会	PHOTONEXT2025【協力】	2025年6月10日～6月11日パシフィコ横浜

附 属 明 細 書

該当事項がないため、記載を省略しております。

以上